

修士論文（要旨）
2012年7月

日本語学習における学習者オートノミー
ーインターネット・インタビュー調査からの考察ー

指導 佐々木倫子 教授
言語教育研究科
日本語教育専攻
210J3905
Meghan Strong

目次

第1章 研究の背景と目的	1
1.1 研究の背景	1
1.2 学習者オートノミー	2
1.2.1 学習者オートノミーと自律学習	2
1.2.2 学習者オートノミーと学習者ビリーフ	2
1.2.3 学習者オートノミーと学習意欲・動機付け	3
1.2.4 学習者オートノミーの育成に関する研究	3
1.3 研究の目的	3
第2章 調査の概要	5
2.1 調査1の概要	5
2.2 調査2の概要	7
2.3 インタビューの概要	9
第3章 調査1の結果	11
3.1 学校外の学習習慣とストラテジー	11
3.2 学校外の日本語使用機会	12
3.3 日本語学習につながるリソース	13
3.4 言語学習に対するビリーフ	14
3.5 学習動機	15
3.6 学習目標	16
第4章 調査2の結果	18
4.1 AF1の事例	18
4.2 AF2の事例	20
4.3 AM1の事例	25
4.4 AuF1の事例	28
4.5 GF1の事例	31
4.6 GF2の事例	35
第5章 考察	38
5.1 学習者オートノミーに関する考察	38
5.1.1 学習計画	38
5.1.2 日本語学習につながるリソース	38
5.1.3 学習目的・動機	40
5.1.4 学習成果の評価方法	41
5.1.5 言語学習に関するビリーフ	42
5.1.6 言語不安	44
5.2 学習者オートノミーの育成に関する考察	44
第6章 まとめと今後の課題	46
6.1 まとめ	46
6.2 今後の課題	47
参考文献	

第1章 研究の背景と目的

外国語を学習するには、その言語が使われている国で生活し、直接その言語づけになる、いわゆるイマージョン環境で勉強することが良いと一般的に言われている。その理由として、その言語を生活上で使うことが必要であることや、周りに生きた言語を学習する機会が多くあることがあげられる。従って、日本語の学習者は日本で勉強すれば、意識的に避けない限り、生活の中で日本語を使うことができ、周りにも学習の機会が多くあると言える。しかし、海外で日本語を勉強する学習者にとって、学校外で日本語を使用する機会はそれほどはない。

そこで、周りの環境を学習に生かして新たな言語を学ぼうとするためには学習者オートノミーが必要と考えられる。学習者オートノミーという概念は「自分の学習を自分で制御する」と定義することが出来る。オートノミーを持っている学習者は、自分の学習を計画し、自分の目標とニーズに合うように整理することが出来る。言語学習者にとって、自らふさわしい学習環境を作るには、このような能力が必要だと考えられる。

学習者オートノミーに関する研究で、重要な概念として近年取り上げられている「授業外学習(out-of-class learning)」とその学習に関係してくる要素に焦点をあて、それらがどのように学習者オートノミーにつながるかを考察することを本稿で試みる。

本研究の目的は、日本語学習者の学習環境（学習機会やリソース等）、学習習慣、学習に対する意識・ビリーフを調査し、どのように授業外学習に取り組んでいるかを明らかにすることにある。そして、その中から、学習者がどれほど「学習者オートノミー」を持っているか、どのようにすれば「学習者オートノミー」を育成できるかの二点を探るものである。

第2章 調査の概要

調査1としてアンケート調査を行い、インターネット上のアンケート実施サイトを利用し、日本語学習者が見るであろうサイトにアンケートへつなぐURLを掲載した。質問の内容として「学校内外の学習習慣やストラテジー」、「学校外の学習機会とリソースの使い方」、「言語学習に対するビリーフ」、「学習動機」に関する質問を行った。調査協力者は57名で、15か国にわたり、16歳から58歳までの男女である。

調査1の結果を踏まえ、調査2として半構造化インタビューを行った。学習者のビリーフや学習に対する意識をより深く追究すべく、学習方法やその成果の具体例を聞くことを目指した。実施方法としてインターネット電話を利用し、海外在住の6名の学習者にインタビューを行った。

第3章 調査1の結果

分析方法として、回答者を3グループ（日本で学習した経験なし、日本で学習した経験あり、現在日本で学習中）に分け、回答内容をそれぞれ質問項目に沿って分類した。「学校外の学習習慣とストラテジー」、「学校外で日本語を使う機会」、「日本語学習につながるリソース」、「言語学習に対するビリーフ」、「学習動機」、「学習目標」の6つのテーマについて3グループの回答を比較し、分析を行い、その結果、日本語学習者の様々な学習傾向が見えてきた。

第4章 調査2の結果

調査2では、異なる背景を持ち、日本語学習歴や学習過程も異なる、6人の日本語学習者にインタビューを行った。インタビューから分かった協力者の日本語学習に関する背景、学習過程、授業外学習方法、日本語使用、学習成果の評価方法、学習に関するビリーフなどをまとめ、これらが学習者オートノミーにどのような影響を与えているかを考察した。

第5章 考察

学習者オートノミーに関連する項目として、「学習計画」、「日本語学習につながるリソース」、「学習目的・動機」、「学習成果の評価方法」、「言語学習に関するビリーフ」、そして「言語不

安」の 6 つの項目について考察を行った。この 6 項目に基づき、学習者オートノミーの育成につながる資質が明らかになった。自分の学習についての決定権と実行力を持っていることを学習者自身に自覚させる必要性を強く主張したい。

第 6 章 まとめと今後の課題

日本語学習者のインタビューからオートノミーについて考察を行ったが、これらの学習者 6 人で日本語学習者の全体が見えたというわけではない。異なる学習動機を持ち、異なる学習経験を経てきた学習者も多くいるため、さらに幅広い学習者像について調査する必要がある。そして、学習者の育成にはどのような考えが必要かについて述べたものの、実際に個々人がこれを実行するには具体的にどのように進めるべきかを考える必要もある。今後、調査対象者の幅を広げ、さらに具体的に学習者オートノミーを目指すためには何が必要かを考察したいと思う。

参考文献

- Baillystok, Ellen. (1981). The role of conscious strategies in second language proficiency. *Modern Language Journal* 65(1), 24-35. Blackwell Publishing.
- Benson, Phil. (2001). *Teaching and Researching Autonomy in Language Learning*. Essex: Pearson Education Limited.
- Benson, Phil. (2006). Autonomy in language teaching and learning. *Language Teaching* 40, 21-40. Cambridge University Press.
- Cotterall, Sara. (1995). Readiness for autonomy: Investigating learner beliefs. *System* 23(2), 195-205. Elsevier.
- Lamb, Martin. (2004). 'It depends on the students themselves': Independent language learning at an Indonesian state school. *Language, Culture & Curriculum* 17(3), 229-245. Routledge.
- Little, David. (1991). *Learner Autonomy 1: Definitions, Issues and Problems*. Dublin: Authentik.
- Little, David. (1996). Freedom to learn and compulsion to interact: promoting learner autonomy through the use of information systems and information technologies. In R. Pemberton et al. (Eds.), *Taking Control: Autonomy in Language Learning*, 203-218. Hong Kong University Press.
- Pearson, Nigel. (2004). The idiosyncrasies of out-of-class language learning: A study of mainland Chinese students studying English at tertiary level in New Zealand. In H. Reinders et al. (Eds), *Supporting Independent Learning in the 21st Century: Proceedings of the Inaugural Conference of the Independent Learning Association*, 121-133. Auckland: Independent Learning Association Oceania.
- Ushioda, Ema. (1996). *Learner autonomy 5: The role of motivation*. Dublin: Authentik.
- 青木直子 (2008) 「学習者オートノミーを育てる教師の役割」 『英語教育』 56(12), 10-13
- 臼杵 美由紀 (2005) 「上級中国人学習者の日本語学習に対する意識と成功への鍵ーインタビュー調査からの考察ー」 『上越教育大学研究紀要』 24(2), 531-543
- 佐々木緑 (2010) 「自律学習支援のための学習者コミュニティーの構築」 『教育総合研究叢書』 3, 97-107
- トムソン木下千尋 (2007) 「学習環境をデザインするー学習者コミュニティーとしての日本語教師養成コースー」 『世界の日本語教育』 17, 169-185
- 藤田ラウンド幸世 (2009) 「学習者オートノミーにおける「学習の见えないプロセス」ーチュートリアル担当教員の物語と学習者の振り返りからー」 『Obirin today : 教育の現場から』 9, 145-163

参考 URL

国際交流基金：2009 年海外日本語教育機関調査

http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/result/dl/survey_2009/gaiyo2009.pdf

(アクセス：2012 年 5 月 24 日)

青木直子「日本語ポートフォリオ」

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/~naoko/jlp/>

(アクセス：2012 年 7 月 3 日)